

平成31年4月26日

森林利用学会

第3回研究会「未利用木材利用可能量推計および収穫システム」の開催について

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、標記研究会を下記の通り開催いたしますので、奮ってのご参加をお待ち申し上げます。参加を希望される方は6月7日(金)までに連絡先までご連絡ください。

敬具

記

日程：

令和元年6月12日(水) 東京大学農学部弥生講堂アネックスエンゼル研究棟講義室

10:00～11:00 森林総合研究所 白澤紘明

日本全国の地形・路網を考慮した作業システムと利用可能量

11:00～12:00 岩手大学 斎藤仁志

造材歩留まりを考慮した木質資源利用可能量の検討

13:00～14:00 東京大学 吉岡拓如

未利用森林バイオマス資源の発生・生産と収穫

14:00～15:00 広島県立総合技術研究所林業技術センター 山場淳史

里山林の未利用樹種の高付加価値化を含めた地域内木質バイオマス利用の再構築

15:00～16:00 宇都宮大学 有賀一広

イタリアのバイオマス利用

連絡先：宇都宮大学 有賀一広 aruga@cc.utsunomiya-u.ac.jp

会場についてのお問い合わせ先：

東京大学大学院農学生命科学研究科 吉岡拓如 tyoshioka@fr.a.u-tokyo.ac.jp

森林利用学会事務局 03-5841-5205

開催の趣旨

平成 24 年 7 月に再生可能エネルギー固定価格買取制度 FIT (Feed-in Tariff) が開始され、木質バイオマス発電、特に固定価格が高値に設定された未利用木材（森林バイオマス）を燃料とする発電施設が、平成 30 年 9 月時点で、全国で 112 ヶ所新規認定され、すでに 61 ヶ所で稼動しています。未利用木材を燃料として利用することは、林業振興や山村の雇用創出などに貢献することが期待されていますが、一方で出力 5,000kW で 60,000t/年程度が必要とされる未利用木材を買取期間 20 年間、安定して調達できるかが懸念されています。

そこで本研究会では「日本全国の長期的な森林バイオマス利用可能量推計モデル」を構築することにより、このモデルを用いて施業体系、燃料材価格が変化した場合や収穫技術、路網整備が向上した場合のコスト低減による利用可能量への影響を検討するとともに、FIT 終了後の状況についていくつかのシナリオを想定、分析することにより、今後の木質バイオマス発電の採算性向上に資する未利用木材長期安定供給シナリオを提示したいと考えております。

また、これまで用材の生産システムに取り組んできた森林利用学会におきまして、FIT で認定を受け稼動を開始した発電所に未利用木材を燃料材として供給する事業体を対象として、実際の未利用木材収穫作業を調査し、効率的な未利用材収穫システムを構築し、新たな産業となる森林バイオマスサプライチェーンの確立、そして安定的な未利用木材の供給体制の構築に貢献したいと考えております。

以上の趣旨により、日頃「未利用木材利用可能量推計および収穫システム」などの研究に取り組まれている皆様と深く議論したく、今回、このような研究会を企画いたしました。本研究会では今後も現地検討会や森林利用学会、日本森林学会におきまして公募セッションや企画シンポジウムを開催するとともに、研究成果は森林利用学会誌、日本森林学会誌におきまして特集号として公表していきたいと考えております。多数の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

参考

日本森林学会誌 99 巻 6 号 (2017 年 12 月発行) 特集「バイオマス発電所は燃料の未利用木材を安定的に確保できるのか？」

森林科学 83 号 (2018 年 6 月発行) 特集「未利用木材の発電利用は持続的たり得るか？」

森林利用学会誌 33 巻 2 号 (2018 年 8 月発行) 研究会「未利用木材利用可能量推計および収穫システム」報告

森林利用学会誌 34 巻 1 号 (2019 年 1 月発行) 第 2 回研究会「未利用木材利用可能量推計および収穫システム」報告

森林技術 926 号 (2019 年 5 月発行予定) 企画シンポジウム「未利用木材利用可能量推計および収穫システム」報告